

## シニアネットワーク東北 平成 24 年度活動報告

### 1. 第 4 回定期総会

日時 平成 24 年 6 月 4 日 (月) 15:00～17:40

場所 東北エネルギー懇談会会議室

今総会で会則の一部改定が承認された。また「代表幹事」に新たに菊地新喜氏が選任され、また今回改定された会則に基づき、菊地代表幹事より、「副代表幹事」に岸昭正氏および山田信行氏が、「幹事長」に高橋謙治氏が任命された。

#### 記念講演

講師 シニアネットワーク連絡会運営委員 小川 博巳氏

演題 学生とシニアの対話交流の成果について

小川様より「学生とシニアの往復書簡が作成されるまでの経緯」や「学生達の対話交流に対する期待」および「シニアネットワークの対話交流の方向性」など有意義で貴重なご講演を頂いた。

### 2. 対話活動

#### (1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成 24 年 5 月 24 日 (木) 10:00～17:00

場所 TKP 仙台カンファレンスセンター ホール 4A

参加者 SNW東北 7名、SNW連絡会 7名、新入社員 46名と対話。

基調講演 SNW 代表幹事 菅原剛彦氏

「東北における原子力の役割」と題して新入社員教育にふさわしい内容で、自己紹介も含めて東北の電力の歴史、原子力発電の歴史、原子力の役割、津波に関する話題として女川を救った先人の英断、その他環境問題における原子力の利点、放射線のリスクなどについて約 2 時間講演した。

対話では、福島原発事故の影響で高まった放射線のリスクや脱原発の風潮などで不安を抱えた新入社員と特に真剣な対話になった。

(2) 山形大学 (3 回目) SNW連絡会との共催

日時 平成 24 年 7 月 21 日 (土) 11:30~16:50

場所 山形大学理学部大講義室他 (小白川キャンパス)

参加者 理学部、工学部、農学部、人文学部の教養課程 1 年生 21 名。

SNW 東北 6 名、SNW 連絡会 8 名

山形大学では教養課程 1 年生の「放射線教育」(担当: 齋藤和男理学部教授) 授業の一環として 2 年前からシニアとの対話を実施してきたが、好評であり本年も実施することになった。

なお、7 月 18 日 (水) に齋藤伸三会長が「対話イン山形 2012」の事前講義として 1 年生に「原子力発電所および福島事故」に関連した講義、および 7 月 21 日の午前中に対話会に先立って、坪谷隆夫氏 (SNW) が「福島原子力災害と新たなお放射性廃棄物の課題」の講義を実施した。

(3) 東北大学工学部 SNW 連絡会との共催 (7 回目)

日時 平成 24 年 10 月 4 日 (木) 12:45~18:00

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学専攻

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 38 名、教官 3 名

SNW 東北 6 名、SNW 連絡会 10 名

基調講演

講師 齋藤 伸三氏

演題 東電福島事故の概要・原因・対策と我が国のエネルギー問題

東北大学では 2006 年 (平成 18 年) から毎年開催され、今回は 7 回目の対話である。学生とシニアとの対話を通して、学生にエネルギー・環境問題や原子力について正しく理解してもらい、同時にこれらの問題に対してどのように臨むべきかを一緒に議論し、シニアの思いを伝えることを目的とする。特に原子力の実務を経験してきたシニアの知

恵と知識を、社会に出る前の学生が吸収し、その将来への自信に繋げてもらうことを意図する。

シニアの一人は講評で「エネルギーや原子力の問題は、特に日本の将来のために大変重要な課題であり、マスコミ等の報道に一喜一憂するのではなく、長期的な視点から理解して欲しい。私は原子力は将来必要だと思うが、それらを含めて判断を下すのは皆様方若者だ。今回の福島原発事故は歴史にも残る程の大きな事件であり、これがどのように収束し復興していくかを皆さんはよく見て欲しい。その体験が必ず将来役に立つと思う」と強調した。

#### (4) 仙台高等専門学校 (3回目)

日時 平成24年10月19日(金) 13:15~17:00

場所 仙台高等専門学校(名取キャンパス) 専攻科棟 マルチメディアルーム

参加者 仙台高専 専攻科 41名、SNW東北 9名

基調講演1 山田 信行氏 「放射線と放射能」

基調講演2 菊地 新喜氏 「地球環境とエネルギー問題」

基調講演の後、4グループに分かれて対話を行った。90分間対話を行い、対話の内容について各グループから報告を聞いた。

学生は、きちんとした考えに基づいて熱心に検討し対話を行った。かつ、原子力の必要性やその理由、または代わるものなどを含めた考えを持っていた。現在のエネルギーや環境問題は、過去の積み重ねの結果であり、次世代を背負う学生たちには先輩が積み残した課題に果敢に立ち向かって欲しい。今日の対話を糧に一層の活躍を祈念したい。

#### (5) 青森大学 (3回目)

日時 平成24年10月31日(水) 9:00~11:40

場所 青森大学 第5会議室他

参加者 ソフトウェア情報学部3,4年生 9名、薬学部1年生 2名、

経営学部 1, 3, 4 年生 6 名 計 27 名

(教授) ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授他

SNW 東北 8 名

基調講演 1 菊地新喜氏 「地球環境、エネルギー問題」

基調講演 2 清野 浩氏 「放射線と放射能について」

SNW 東北の青森大学における対話集会は 3 年、3 回目である。

最初に第 5 会議室において、「地球環境とエネルギー問題」、「放射線と放射能」について、各 30 分の基調講演が行われた。その後、各学生 6~9 名と SNW 東北 2 名との 4 グループに分かれて約 1 時間グループ対話を行った。

対話の後、再び第 5 会議室に集まり、各グループ代表者から対話内容の発表があった。その間、講演、グループ対話についてのアンケートも実施した。

最後に、SNW 東北からグループ対話の講評を行い、日程を終了した。

#### (6) 宮城学院女子大学 (3 回目)

日時 平成 24 年 11 月 30 日 (金) 10 : 20 ~ 12 : 10

場所 宮城学院女子大学キャンパス

参加者 学生 生活文化学科 3 年生 14 名

教員 林 基哉教授、日下 彩先生

SNW 東北 3 名

今回は従来の対話形式ではなく、林教授の講義の一コマで行った。従って、グループ分けをした対話ではなく放射線に関する講義と「はかるくんⅡ」を用いたバックグラウンドの測定実習を行った。

講義 清野 浩氏 「放射線と放射能について」

東北エネルギー懇談会「ひろば 408 号」

低線量放射線被曝の身体的影響 (坂本澄彦著) の概要説明

「はかるくん」によるバックグラウンド (大学の構内) の測定

・測定データの検討

(7) 八戸工業大学 SNW連絡会との共催 (8回目)

日時 平成25年2月18日(月) 13:00~17:30

場所 八戸工業大学 メディアセンター

参加者 八戸工大学生 約16名

教官 4名、SNW東北 4名、SNW連絡会 6名

基調講演 菅原 剛彦氏 「原子力・エネルギー問題の動向」

これまでの対話会の経験から、学生とリラックスした対話を持てるように事前に学生とシニアが昼食を共にするという学校側の配慮により、八戸名物のせんべい汁を囲んだ昼食会が行われた。これがスムーズな対話を進めるうえで功を奏した。

基調講演では、「いつでも・どこでも・誰でも・安く・必要量を・安定して手に入れたい」というのが電力エネルギーで、それには世界的なエネルギー需要の急増、化石燃料の枯渇等いろいろ厳しい現実があること、福島事故と原子力を取り巻く状況を説明され、締めくくりとして「次世代を担う学生は原子力問題を多角的に見極め、夢と希望を持って向き合ってもらいたい。何事にも危害を持って取り組めば問題を乗り越える知恵と自信が湧いてくる」とのエールを送った。

(8) 東北学院大学 (5回目)

日時 平成25年2月22日(金) 13:00~17:00

場所 東北学院大学工学部 多賀城キャンパス 3号館2F

参加者 工学部3年生、4年生、院生 14名

SNW東北 10名

基調講演1 岸 昭正氏 「エネルギー・環境問題と原子力の役割」

基調講演2 清野 浩氏 「放射能と放射線」

基調講演の後、4グループに分かれて約2時間の対話を行った。  
その結果について各グループの代表からの報告を聞いた。今回は急に学生の就職関係の行事が入ったようで参加者は予定の半数程度になったが、その分少人数なので対話がし易かったため、学生の発言は自然に突っ込んだ内容となった。

対話の内容は「原子力発電は必要かどうか」と「放射性物質の安全基準はどうなっているか」という点に集中していたが、対話の中ではマスコミの脱原発の風潮に対して原子力発電は必要であるとの認識を持ってくれたようだ。

### 3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会（公開）に合わせ、会員を対象に勉強会を3回実施した。

#### (1) 第10回会員勉強会（第4回定期総会での記念講演）

日時 平成24年6月4日（木）16:00～17:20

場所 東北エネルギー懇談会会議室

講師 シニアネットワーク連絡会運営委員 小川 博巳様

演題 「学生とシニアの対話交流の成果について」

小川様より「学生とシニアの往復書簡が作成されるまでの経緯」や「学生達の対話交流に対する期待」および「シニアネットワークの対話交流の方向性」など有意義で貴重なご講演を頂いた。

#### (2) 第11回会員勉強会

日時 平成24年8月27日（月）

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 26名

講演1 講師 元東北電力常務 阿部 壽様

講演 「女川につなみ対策について（歴史的検証）」

女川2号機の安全審査段階で「仙台平野における貞観11年三陸津波の痕

跡高の推定」を実施したことなどについてご講演を頂いた。

講演 2 講師 東北電力原子力部 嶋田副部長、飯田副長

演題 「IAEAの女川視察について」

「IAEAが行った女川原子力発電所の調査の概要」などについてご講演を頂いた。

講演 3 講師 東工大名誉教授 藤井靖彦様

講演 「これからの日本の原子力について」

「世田谷市民大学公開講座の紹介」や「原子力発電に関する日本の課題」等についてご講演を頂いた。

### (3) 第12回会員勉強会

日時 平成24年12月18日(火) 15:00~17:10

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 講師陣を含め25名

講演 1 講師 東北電力原子力部 八重樫部長

演題 「IAEAによる女川原子力発電所耐震レポートの状況」

講演 2 講師 東北電力原子力部 横式課長

演題 「新しい規制庁になってからの安全体系・安全審査の概要」

女川原子力発電所は激しい揺れと津波に襲われたが、IAEAの評価では被害の程度は予想以上に少ないということで、耐震強度が確保されていたことを認めている。また、原子力規制庁が出来て安全基準が抜本的に見直されていることに関連して、再起動の条件としてフィルター付きベントの導入が大きな課題になっていることなど重要テーマについて概要を伺った。

### (4) 第13回勉強会

日時 平成25年2月8日(金) 15:00~17:30

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 20名

講演1 講師 SNW東北会員 阿部 寿氏

演題 「断層と津波について」

東通や敦賀など原子力規制委員会の現地調査の中で、従来問題ないとされた断層が耐震上評価すべき活断層と判定されていることから、「従来の安全審査が的確に行われていなかったのではないか？」と思われる可能性があり、安全審査の受審経験について阿部会員から説明頂いた。合わせて、活断層の評価や課題についても説明頂いた。

講演2 講師 SNW会員 菅原 剛彦氏

演題 「原子力・エネルギー問題の動向」

2月18日SNW、SNW東北合同で八戸工業大学の学生との対話があり、表題の基調講演を菅原幹事が行うため、勉強会を兼ねて原稿のレビューを行なった。

「今、国内外は厳しい（流動的な）状況にあるが、学生にとってエネルギー問題・環境問題は将来身近な問題になると予想される。このため、問題の本質を見極めキチンと理解するための、情報や知識や経験が大事になる。問題への挑戦が、夢と希望を与えてくれる。」との主旨のパワーポイントで説明を頂いた。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日 （必要に応じて臨時）

(1) 第31回 平成24年4月27日

(2) 第32回 平成24年5月28日

(3) 第33回 平成24年6月25日

(4) 第34回 平成24年7月30日

(5) 第35回 平成24年9月21日

(6) 第36回 平成24年10月16日

(7) 第37回 平成24年11月26日

(8) 第38回 平成25年1月28日

(9) 第39回 平成25年2月25日



(10) 第40回 平成25年3月27日

5. 「SNW連絡会運営小委員会」および「エネルギー問題に発言する会運営委員会」  
参加

原則毎月第3木曜日（8月は休会）（場所）原子力安全推進協会（JANSI）会議室  
情報収集のため参加し、拡大幹事会で報告，必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成24年度参加シンポジウム、見学会

(1)参加シンポジウムなど

・第49回アイソトープ・放射線研究発表会

主催 日本アイソトープ協会

日時 平成24年7月9日（月）～11日（水）

場所 東京大学 弥生講堂

参加者 山田信行

・SNW第13回シンポジウム

主催 SNW連絡会

共催 エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会（EEE会議）、  
NPO日本の将来を考える会

日時 平成24年8月4日（土）13:00～17:20

場所 東京大学武田先端知ビル5階

参加者 山田信行、高橋謙治

場所 青森県六ヶ所村交流プラザ・スワニー大会議室

7. SNW 東北のホームページ作成

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、

会の活動状況の詳細を把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ：<http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 24 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	参加 学 生 数	SNW東北とSNW（東京）の参加者	備 考
7/21(土)	*山形大 学	21名	SNW東北6名(菅原、高橋(弘)、高橋(謙)、高島、山田、涌沢) SNW(東京)4名	3回 目
10/4(木)	*東北大 学	38名	SNW東北6名(菊地、岸、菅原、高橋(謙)、山田、高島) SNW(東京)6名	7回 目
10/19 (金)	仙台高専	41名	SNW東北9名(菊地、菅原、清野、高橋(謙)、高橋(弘)、高島、水原、早坂、山田、涌沢)	3回 目
10/31 (水)	青森大学	27名	SNW東北8名(菊地、清野、高橋(謙)、岡本、岸、工藤、宮本、佐々木)	3回 目
11/30 (金)	宮城学院 女子大学	14名	SNW東北3名(菊地、清野、山田)	3回 目
2/18(月)	*八戸工 業大学	16名	SNW東北4名(菅原、高橋(謙治)、岸、工藤) SNW(東京)6名	8回 目
2/22(水)	東北学院 大学	15名	SNW東北8名(岡本、菊地、岸、早坂、高橋(弘)、高橋(謙)、清野、宮本、)	5回 目

(注) \*印は東京のシニアネットワークと共催

参加学生 172名 SNW東北延べ 44名 SNW(東京)延べ16名

なお、全国大では今年度、愛知教育大学、京都女子大学、九州大学、福井・福井工大、九州工大、広島商船高専、福岡教育大学、熊本大学で実施している。ただし、S

NW東北からは参加していない。

以上